

## 2-26-2 国指定史跡 盛岡城跡

所在地 盛岡市内丸1番地ほか

指定年月日 昭和12年4月12日

盛岡城は、三戸さんのへから不來方こずかたに居城の移転を決定した南部信直なんぶのぶなお（盛岡藩初代藩主）が、慶長2年（1597）に嫡子利直としなお（第2代藩主）を総奉行として築城を始めたと伝えられ、翌慶長3年（1598）の正式許可の後、築城工事が本格的に進められた。

城の縄張りは豊臣家重臣あさのながまさの浅野長政の助言によるものと言われ、北上川と中津川の合流点に突き出した丘陵に本丸・二の丸こしくるわ・腰曲輪などを配し、それぞれに雄大な石垣を構築して内曲輪うちくるわ（御城内）としている。

さらに、内曲輪の北側は起伏の激しかった現在の内丸地域うちまるを平坦にして堀で囲み、南部氏一族や藩の家臣たちの屋敷を配置して外曲輪そとくるわとした。また、外曲輪の中津川対岸の城下を堀で囲み、武士や町人たちの屋敷街である遠曲輪とおくるわ（総構え）が配置されている。

築城工事は、北上川や中津川の洪水にみまわれながらも続けられ、築城開始から36年後の寛永10年（1633）に南部重直しげなお（第3代藩主）が入城して以来、藩政時代を通じて盛岡南部氏の居城となった。

盛岡城は、廃藩置県の後明治5年（1872）に陸軍省所管となり、明治7年（1874）には内曲輪（御城内）の建物の大半が取り壊され、城内は荒廃したが、明治39年（1906）に近代公園の先駆者である長岡安平ながおかやすへいの設計により岩手公園として整備され、市民の憩いの場として親しまれている。

平成18年（2006）には開園100周年を記念し、「盛岡城跡公園」と愛称をつけた。

平成21年10月

盛岡市  
説明板より